

情報メディアセンターの学生管理グループ

佐々木 美智子

本ジャーナルの前号に引き続き、情報メディアセンターで活躍する学生の活動を紹介します。情報メディアセンターのメディアホールに設置されている音楽編集用システム、ビデオ編集用システム、デザイン用システムは、学生の自由な利用を前提としたシステムである。より学生に使いやすいシステムにするため、学生のボランティアグループ SRG(Student Research Group)に管理運営を委託している。

キーワード： 学生管理グループ

1 はじめに

メディアホールの Windows95 及び Macintosh で構築されているビデオ編集システム、音楽編集システムは興味のある学生が自由に使って作品を作ったり、スキルを磨く為にメディアホールに置かれている。Macintosh も、Windows とは違う使い勝手のよさを体験できるように設置されている。

これらは演習室のパソコンとは違い、学生の要望をより反映させたシステムを構築することが可能なので、パソコンシステムの管理に興味のある学生に管理を委託することになった。

2 SRGの発足

1998年6月に以下の方針のもと情報システム委員会の下部組織として同委員会にて承認され、7月23日に第一回のミーティングにて2年生2名、1年生2名で発足した。顧問教員は武山助教授が担当した。

(1)活動方針

メディアホールの Windows 95 及び Mac は学生に管理を委託する。これらはマルチメディア技術を生かした作品を作成するため、学生が自由に利用するためのマシンである。学生サークルを作り、顧問の先生、学生の責任者を決めてもらい、情報メディアセンターと連携をとりながら管理・運営する。それらは、情報システム委員会承認を受けて実施する。

(2)主な担当内容

ソフトウェアを利用できる環境を整える。
他の学生からの要望を受け付ける。
障害の対応をする。困難な場合はコアセンターに相談する。

(3)情報メディアセンターとの連携について

現在インストールされているソフトウェアの一覧を

渡す。その他必要な情報を伝える。それらの媒体やマニュアルは、事務室で貸し出す。

ネットワークに関わることは、コアセンターが管理する。

ソフトウェアのライセンス管理は、情報メディアセンター事務が行う。

物品の購入を希望する場合は、ミーティングで話し合い、企画書を提出する。顧問教員および情報メディアセンター事務課の承認を受ける。また購入したものについては責任をもって速やかに一般学生が利用できるように準備を行なう。必要であればマニュアル等を作成する。

システムの用途変更、機種更新等については、情報システム委員会の承認を受ける。また年に一度活動報告を情報システム委員会に行なう。

3 活動報告

3.1 1998年度の活動

主旨に賛同し集まった学生は前述通り2年生2名、1年生2名であった。名称も SRG(Student Research Group)と決まった。初年度のミーティングは全12回行われ、障害対応のルートや作業に必要な媒体やマニュアル類の貸出しの整備を行なった。

主な活動としては以下の通りである。

- (1) 現行のビデオ編集システム及び音楽編集システムのスペック強化とソフトウェアの追加を行なった。
- (2) 新たに Web 作成デザイン用システムを構築した。
- (3) imac を導入した。
- (4) 不当に置かれた個人ファイルの削除、不要なソフトウェアの削除等の見直しを行なった。

3.2 1999年度の活動

1999年6月に新規メンバーの募集を行なったところ、計7名の応募があり、メンバーは11名となった。メンバーの増加に伴い、ビデオ編集システム全機種を対象機種とし、全8台となった。メンバー連絡用及び

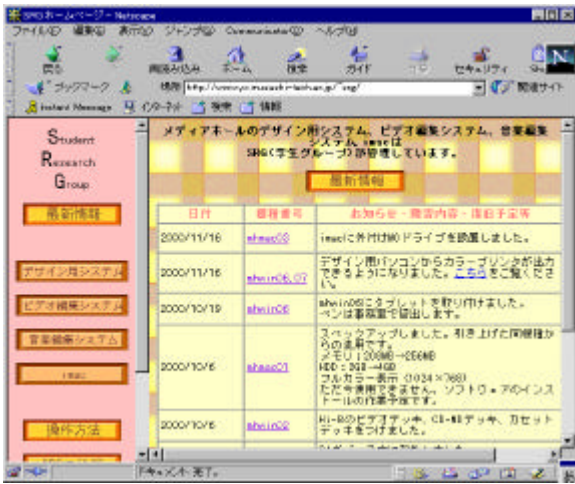


図1 SRGメンバー向けホームページ

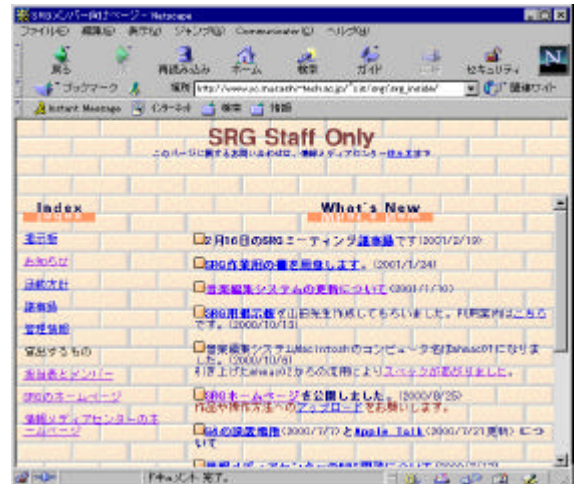


図2 一般学生向けSRGホームページ

情報共有のために、メンバー向けのホームページを作成した(図1)。

また、7月30日、31日に行われたキャンパス見学会では、学生アルバイトとしてSRGのメンバーが中心となり担当しているシステムのデモを行なった。これは主に大学受験を控えた高校生を対象に施設の見学をしてもらうのが目的であるが、音楽編集システムの実演などを行い人気を集めていた。

以下に主な活動を挙げる。

- (1) 1998年度に購入したソフトウェア等のインストール及び利用案内の作成を行なった。
- (2) Web作成デザイン作成用システムのセキュリティを強化するためローカルユーザを設定しWindows NTにした。
- (3) 各種ソフトウェアのアップグレード及び一部ソフトウェアの追加を行なった。

3.3 2000年度の活動

当年度も6月に新規メンバーの募集を行ない、1年生を中心に、計5名の応募とその後2名の追加がありメンバーは18名となった。メンバーが増えたことで、各システムに先輩と後輩という組み合わせで担当を決め、後継者育成を意識した活動が行なえるようになった。

SRGの活動の広報と対象機種の利用促進のため、一般学生向けのホームページを作成し、情報メディアセンターのページからリンクを貼った(図2)。更に、メンバー同士の情報共有と意見交換のため、掲示板を作成し、従来のメーリングリストと併用してより緊密に情報交換できる環境を整えた。

主な活動は以下の通りである。

- (1) 音楽編集システムの機種更新の企画を行なった。導入は次年度になるが、初心者から熟練者までが利用できるシステムとして、簡単な音楽編集ソフトに加え、ハードディスクレコーディングができるシステ

ムを企画した。

- (2) 学生の要望の高い、Webデザイン用システムの増設を行なった。具体的には、Power PCのMacintoshをG4に更新し、ビデオ編集システムからスキャナ、タブレットを備えたデザイン用システムに用途を変更した。また、Windowsシステムもメディアホールの電子メール用パソコン2式をWebデザイン用に変更し、メモリ増設をはじめ周辺機器やソフトウェアを充実させた。
- (3) ビデオ編集システムは、利用者が5分から10分の長時間の作品の作業をすることが多く、メモリやハードディスクは充分であるがCPUの能力が追いつかず、障害を起こしやすくなっている。障害対応に追われる地道な活動となってしまっているため、機器構成の見直しを行なった。

下表は1998年度から2000年度のメンバー数及び管理対象システム台数の推移を現した表である。図3に対象機器の2001年3月現在のメディアホールでの配置を示す。

表1 メンバー数と対象機種台数の推移

名称	98年度	99年度	2000年度	
メンバー数	4名	11名	18名	
管理対象台数	4台	8台	9台	
内訳	ビデオ編集システム(Win)	1	3	3
	ビデオ編集システム(Mac)	1	1	-
	デザイン用システム(Win)	1	1	2
	デザイン用システム(Mac)	-	-	1
	音楽編集システム(Win)	-	1	1
	音楽編集システム(Mac)	1	1	1
	Imac	-	1	1

4 今後の課題

今まで活動を行ってきた中で一番感じることは、いかにメンバーの活動意欲を持続させるかということであ

る。

自分たちが企画したシステムを構築できるという満足感により成り立つボランティア活動であるが、その作業は地味で障害対応やインストール作業などは多くの時間が拘束され、負担となる。そのため作業の進捗はメンバーの自発的な義務感と責任感に頼る面が大きい。

組織として、メンバーの負担になりすぎない仕組みと作業分担の際の配慮が今後も継続していくために必要である。

この点を踏まえて、今後の課題を以下に挙げる。

- (1) まずは障害の起きにくい、セキュリティを強化したシステムを構築する。

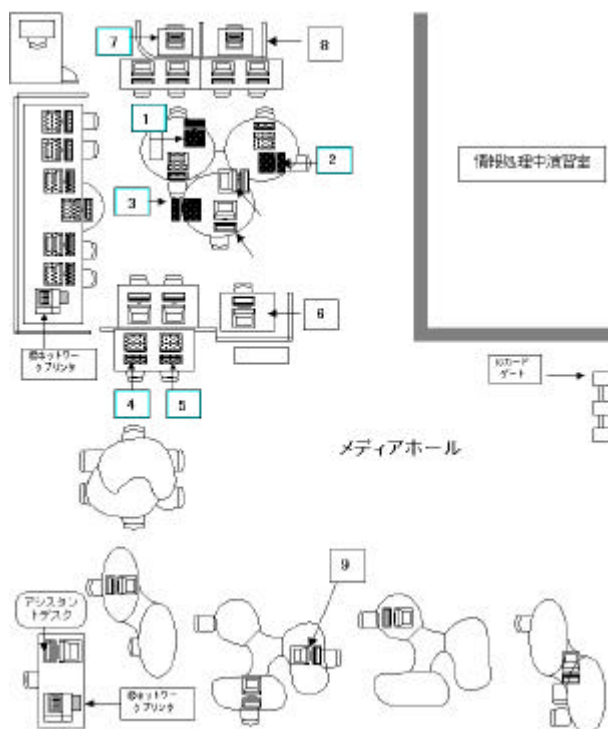
障害が発生した場合は、よりスムーズな復旧が行えるように、ハードディスクのバックアップをとるなど準備しておく。

また、障害対応を行なう為に技術の蓄積を行なう。具体的には作業内容を掲示板に各自書き込むことを徹底する。

- (2) メンバー同士の交流を深めることにより、更に楽しい雰囲気の中で活動できるよう通常のミーティング以外にも懇親会などを行なう。

- (3) 作業しやすい環境を整える為、貸出すものを整理しメンバーに周知し、テスト用の媒体などは鍵の貸出により自由な時間に利用できる棚に保管する。またインストール作業に必要なシリアルナンバーなどの情報も整理する。

- (4) 対象システムの一般学生への利用促進を行なう。ホームページに対象システムを利用して作成した作品を紹介したり、使い方を載せるなどする。利用者が増えれば役割の重要性が増し、やる気に繋がると思われる。



1-3	ビデオ編集システム(Windows)
4,5	デザイン用システム(Windows)
6	デザイン用システム(Mac)
7	音楽編集システム(Windows)
8	音楽編集システム(Mac)
9	imac

図3 対象機器のメディアホール配置図
(2001年3月現在)

5 おわりに

学生に管理を任せる、といっても、学生が主体で情報メディアセンター側が補助的に活動すればいい、というものではなく、今まではやはり情報メディアセンターが活動の牽引役を担わないと成り立たなかった。当初考えていたより、活動が思うように発展しないで、その対策を講じるたび情報メディアセンターの仕事が増えていった。

しかし、やはり学生に魅力あるシステム作りに学生が参加することは有意義であると思う。情報メディアセンターにとっても、学生にとっても負担になり過ぎず前向きに活動できる工夫をしていきたいと思う。